

\*本リリースは米国時間 4 月 23 日にアトランタで発表されたリリースの翻訳です。

2013 年 4 月 24 日

## デルタ航空、2013 年度第 1 四半期の業績を発表

【米国アトランタ、2013 年 4 月 23 日】— デルタ航空 (NYSE:DAL) は本日、2013 年第 1 四半期(1 月-3 月期)の業績を発表しました。主な内容は次のとおりです。

- 2013年第1四半期(1-3月期)の特別項目<sup>1</sup>を除く純利益は8,500万ドル(希釈後1株当たり0.10ドル)で、前年同期比1億2,400万ドル増となりました。
- 特別項目の7,800万ドルを含むGAAPに基づく四半期純利益は、700万ドル(希釈後1株当たり0.01ドル)でした。
- この業績には、プロフィット・シェアリング(デルタ航空財務目標達成への従業員の貢献を評する利益分配)費用2,000万ドルが含まれます。
- 2013年第1四半期の営業キャッシュフローは11億ドル、フリーキャッシュフローは4億5,700万ドルで、同四半期末における調整後純負債は110億ドルを下回りました。

デルタ航空の最高経営責任者、リチャード・アンダーソン(Richard Anderson)は次のように述べています。「本年第 1 四半期の業績は、財政面でも運航面でも過去 10 年間で最高の第一四半期となりました。好業績を生み出した全世界のデルタ航空従業員の貢献を評価したいと思います。この業績は、デルタ航空がお客様、株主、社員に選ばれる航空会社となるための正しい道筋を歩んでいることの証明です。堅実な財政基盤に、ニューヨークのラ・ガーディア空港拡張事業、ヴァージン アトランティック航空への投資、ニューヨーク JFK 空港のターミナル 4 増改築などの各種プロジェクトが生み出すビジネス好機が加わり、デルタ航空は将来的に大幅な利益拡大を見込める好位置にいます。」

### 収益環境

2013 年第 1 四半期(1-3 月期)の営業収益は、前年同期比で 8,700 万ドル(1.0%)増加しました。輸送容量(キャパシティ)が 2.5%減少し、輸送量が 0.6%減少した中、座席利用率(ロードファクター)は 81.2%に上昇しました。

- **旅客収益** は前年同期比で 1 億 700 万ドル(1.4%)増加しました。イールドの 2.1%向上により、旅客単位収益(PRASM)は 4.1%増加しました。
- **貨物収益** は貨物イールドの低下により 600 万ドル(2.4%)減少しました。
- **その他収益** は、他社向け保守・整備サービスの収益減少により、1,400 万ドル(1.4%)減少しました。

以下は、収益関連の実績比較表です。

旅客収益	2013 年 第 1 四半期 (百万ドル)	増(減)			
		2013 年第 1 四半期対 2012 年第 1 四半期			
		前年比 増減	単位 収益	イールド	輸送容量
米国内線	3,402	6.1 %	4.9 %	4.5 %	1.2%
大西洋路線	1,052	(3.4) %	8.1 %	3.9 %	(10.6) %
太平洋路線	871	3.1 %	3.7 %	(0.4) %	(0.6) %
中南米路線	551	5.5 %	3.3 %	(2.5) %	2.1 %
主要路線合計	5,876	3.8 %	5.5 %	3.0 %	(1.6) %
地方路線	1,457	(6.8) %	1.8 %	3.5 %	(8.5) %
連結	7,333	1.4 %	4.1 %	2.1 %	(2.5) %

デルタ航空社長のエドワード・バスティアン(Edward Bastian) は次のように述べています。「第1四半期の単位収益は4%向上し、かねてより進めてきた運航業務、プロダクトやサービスへの投資と、輸送容量の調整との組み合わせにより、収益を生み出す堅実な基盤を確立できたことを示しています。3月下旬に見られた直前予約の低迷を解消するべく施策を打っていますが、米国政府の強制歳出削減の影響とレジャー需要の低下が重なり、4月の単位収益は2~3%の減少を見込んでいます。しかし、航空業界の統合が進んだ結果、収益と燃料の間に以前よりも遥かに強い相関関係が見られるようになりました。つまり、収益が減少しても、燃料費の低下による恩恵を受けられ、低迷する経済環境においても、利益マージンの拡大を追求し続けることができます。」

### 収益環境

2013年第1四半期(1-3月期)中の営業活動によるキャッシュフローは、前売り航空券の季節的な販売高上昇と、第1四半期利益率の上昇により、1億1,000万ドルとなりました。また、当四半期中に4億5,700万ドルのフリーキャッシュフローを生み出しました。

当四半期の資本支出は6億5,000万ドルでした。これには機材投資分5億ドルと、ロンドン・ヒースロー空港発着枠2枠への4,700万ドルの投資が含まれます。資本投資には、負債削減策の一環である21機のリース機体の購入が含まれます。当四半期中の満期負債返済と資本リース支払は、3億8,200万ドルでした。

当四半期末の調整後純負債は110億ドルを下回り、2009年以降、60億ドルの純負債額削減を果たしました。この負債削減策により、当四半期中の利息支払額は前年同期比で5,000万ドル削減されました。2013年3月31日現在、デルタ航空の制約を伴わない流動性資産は、現金および短期投資36億ドル、リボルビング与信枠残高18億ドルを含め、54億ドルでした。

### 燃料

MTM(時価)調整を除く2013年第1四半期(1-3月期)の燃料費は、燃料価格の低下と消費量減少により、前年同期比7,800万ドル減少しました。2013年第1四半期の1ガロン当たりの燃料の平均価格<sup>2</sup>は3.24ドルで、これには1ガロン当たり6セントの既済燃料ヘッジ契約損を含みます。2013年第1四半期中のトレイナー精油所での操業については、大型ハリケーン・サンディーによる供給中断や、ガソリン生産ユニットの短期的な操業停止により生産速度が低下したため、当四半期中に2,200万ドルの損失が発生しました。

### コストパフォーマンス

2013年第1四半期(1-3月期)の燃料費を除く営業経費合計は、営業、サービス、従業員への投資の影響により、前年同期比1億9,800万ドルの増加となりましたが、その一部はデルタの構造コスト削減計画の効果によって相殺されました。

2013年第1四半期(1-3月期)の燃料費、プロフィット・シェアリングおよび特別項目を除く連結ベースでのユニットコスト(CASM-Ex<sup>3</sup>)は、輸送容量減少、賃金増加、営業投資およびサービスへの投資の影響で、前年同期比5.0%増となりました。GAAP連結CASMは5.8%増加しました。

デルタ航空最高財務責任者のポール・ジェイコブソン(Paul Jacobson)は次のように述べています。「2013年第1四半期(1-3月期)の燃料費以外のユニットコストの増加は予想を下回りました。これは構造コスト削減計画によって、人材、営業およびサービスへの投資に伴うコスト増加を一部相殺できたためです。今年後半には構造コスト計画のさらなる推進の成果と昨年の投資効果が表れ、コスト増の影響が大幅に軽減されると見込んでいます。」

### 実績概要

デルタ航空は、お客様、地域社会、従業員に対する取り組みを重要視しています。2013年第1四半期(1-3月期)の主な達成事項は以下の通りです。

- FORTUNE誌の「Most Admired Airline(2013年世界で最も賞賛される企業リスト)の航空業界部門1位」、Aviation Week誌の「Laureate Award for Innovation」、予約販売に関する「International Service Excellence Award」の受賞等、主要な組織や出版物で高い評価を得ました。
- 財務目標および営業目標の達成を評価し、今年に入って従業員に対して4,300万ドルのインセンティブを付与しました。これには従業員へのプロフィット・シェアリング2,000万ドルと、分配報奨金(シェアード・リワード)2,300万ドルが含まれています。

- 運航実績を大幅に改善しました。その結果、定時到着率86.2%を達成し、顧客からの苦情が2012年に比べて12%減少しました。
- ニューヨークのラ・ガーディア空港ターミナルCおよびDの改修、接続ブリッジの建設、デルタ スカイクラブ、座席エリアや食事オプションの改善、またアーキテクチュラル・ダイジェスト社の協力を得て設計した、アトランタとニューヨークJFK空港内の屋外デッキスペース「スカイデッキ」等、高品質な施設への投資を継続しました。
- スターウッドとの業界大手共同マイレージプログラムパートナーシップによりクロスオーバー・リワードを導入し、スカイマイルメダリオンプログラムを強化しました。このパートナーシップにより、両社のロイヤリティプログラム会員は特典を共有できるようになり、旅行中いずれかの企業を利用することで、より多くのマイルやスターポイントを獲得できるようになりました。
- オンラインおよびデジタルエクスペリエンスの広範な導入と大幅な改善の一環として、iPadおよびiPhone用の新しいFly Deltaアプリケーションをリリースしました。新しいFly Deltaアプリケーションには独自の「グラスボトムジェット (Glass Bottomed Jet)」機能などが追加されました。
- NGOハビタット・フォー・ヒューマニティ(Habitat for Humanity)と協力し、海外で9回目となる建設ボランティア活動をメキシコのプエブラ(Puebla)で実施し、6棟の家を建設しました。同プロジェクトには従業員50名以上に加え、アエロメヒコ航空の従業員やスカイマイルのメダリオンメンバーのお客様が参加しました。

### 特別項目

2013年第1四半期(1-3月期)に総額7,800万ドルの特別項目を計上しましたが、これには以下の項目が含まれています。

- 将来約定する燃料ヘッジの評価替え益2,400万ドル
- 施設、機材その他項目に関する費用1億200万ドル

前年同期には総額1億6,300万ドルの特別項目を計上しましたが、これには以下の項目が含まれていました。

- 将来約定する燃料ヘッジの評価替え益1億5,100万ドル
- ニューヨークラガーディア空港およびワシントンリーガンナショナル空港の発着枠売却に伴う3,900万ドルの利益
- 施設、機材その他項目に関する費用2,700万ドル

### 2013年4-6月期の予測値

2013年第2四半期(4-6月期)の業績予想は以下の通りです。

	<u>2013年第2四半期の 予測値</u>
営業利益率	9 - 11%
燃料価格(諸税、ヘッジ、および精油所の影響を含む)	2.95 - 3.00ドル
	<u>2013年第2四半期の 予測値(前年同期比)</u>
連結単位費用(燃料費とプロフィット・シェアリングを除く)	4.5 - 5.5%増加
システム旅客輸送容量	1%増加
米国内線	1 - 2%増加
国際線	1%減少

### その他の事項

このプレスリリースには、2012年および2013年の3月31日を期末とする3ヶ月間のデルタ航空の未監査の連結損益計算書、各期間の統計的概要、2013年3月31日および2012年12月31日時点の貸借対照表データの抜粋、ならびにGAAPに基づかない財務措置上の調整が含まれています。

## デルタ航空について

デルタ航空は年間 1 億 6,000 万人以上の搭乗者数と広範なネットワークを持つ航空会社です。デルタ航空はフォーチュン誌の「2013 年世界で最も賞賛される企業リスト」の航空業界部門(2013 World's Most Admired Companies Airline Industry List)において、1 位を獲得しました。デルタ航空がこの賞を受賞するのは、この 3 年で 2 度目です。デルタ航空およびデルタ・コネクションは、世界 57 カ国、313 都市に向けてフライトを運航しています。米国ジョージア州アトランタに本社を置き、世界で約 8 万人の従業員を擁し、700 機以上の主要機材を運航しています。また、航空連合(アライアンス)「スカイチーム」の創立メンバーとして、大西洋路線においてエールフランス-KLM、アリタリア-イタリア航空とともに、共同事業を展開しています。アトランタ、シンシナティ、デトロイト、メンフィス、ミネアポリス/セントポール、ニューヨーク(ラ・ガーディアおよび JFK)、ソルトレイクシティ、パリ(シャルルドゴール)、アムステルダム、東京(成田)をハブ空港とし、提携航空会社と合わせて一日に 1 万 5,000 便以上のフライトを運航しています。現在、総額 30 億ドルを投じて空港施設やプロダクト、空港および機内での顧客サービス向上とテクノロジー導入を進めています。詳しくはホームページ [delta.com](http://delta.com) をご覧ください。

## 注記

- (1) 付録の「連結損益計算書」の注 A に、本リリースで使用した GAAP に基づかない財務措置上の調整内容と、経営陣がそのような措置を取る理由を記載しています。
- (2) 1 ガロン当たりの平均燃料価格: デルタ航空の 2013 年第 1 四半期(1-3 月期)における 1 ガロン当たりの平均燃料価格である 3.24 ドルは、主要路線と地方路線の両事業における 1 ガロン当たりの連結費用を反映し、当四半期中に満期を迎えた燃料ヘッジ契約の影響を含んでいます。確定した今期のヘッジ損は 5,300 万ドル、1 ガロンあたり 6 セントでした。GAAP に基づく燃料価格には、決算期以外の燃料ヘッジ契約の評価替え損として計上された 2,400 万ドルが含まれています。精油所の今期純損失は 2,200 万ドル、1 ガロンあたり 2 セントでした。比較対象となる GAAP 基準に依じた 1 ガロン当たりの平均的・経済的な燃料価格の調整については、注 A を参照してください。
- (3) CASM-Ex: 燃料費、プロフィット・シェアリング、特別項目以外にも、デルタ航空が第三者に提供する航空機の保守および人材派遣サービスや、デルタ航空のパッケージツアー卸売事業(MLT)など、座席マイルの発生に関与しない付属事業を除外しています。2013 年第 1 四半期の除外金額は 1 億 8,500 万ドルでした。2012 年第 1 四半期の除外金額は 2 億 4,000 万ドルでした。この方法により、デルタ航空の航空事業の反映において一貫性と比較可能性が向上するものと、経営陣は考えます。

## 将来予想に関する記述

弊社の将来的な推定値、期待値、信条、意図、予測、戦略など、歴史的な事実ではないこの投資家向け更新情報における記述は、1995 年私募証券訴訟改革法で定義されている「将来予想に関する記述」の場合があります。すべての将来予想に関する記述には、将来予想に関する記述の中で反映または示唆される推定値、期待値、信条、意図、予測、戦略から実績を著しく異ならせる可能性のある、多数の危険性と不確実性が存在します。このような危険性と不確実性には、航空機燃料費、航空機燃料の可用性、弊社の燃料ヘッジ契約に関連した担保供与の影響、定義された福利・年金制度に関する多大な資金調達義務の影響、弊社の負債が弊社の財務活動および経営活動ならびに更なる負債を生ずる弊社の能力に与える可能性のある影響、弊社の融資契約の財務制限条項が弊社の財務活動および事業経営に与えることになる制限、労働問題、弊社のいずれかのハブ空港におけるサービスの中断または混乱、弊社の運営上の技術依存度、弊社の情報技術インフラストラクチャのセキュリティ障害や違反、弊社のクレジットカード処理機が一定条件で大幅な一時停止を実行できる能力、弊社の航空機が関与する事故によって発生する可能性のある影響、弊社事業における天候、自然災害、季節性による影響、第三者的な地方路線キャリアに起因する長期的なサービスの混乱がもたらす影響、トレーナー精油所での大規模な損害賠償に対する保険適用能力の欠如、トレーナー精油所に対する環境規制の影響、弊社の経営陣および主要な従業員を維持する能力、純営業損失による将来的な課税対象収入の相殺の可能性、航空産業における競争状態、弊社事業に対する大幅な行政規制、テロ攻撃の影響、伝染病の急速なまん延による影響、精油所操業に関連するコストなどがあります。

実績と将来予想に関する記述の間に相違を発生させる、危険性および不確実性に関する追加情報については、2012 年 1 月 1 日~12 月 31 日会計年度用の Form 10-K に記載された弊社の「年次報告」など、弊社の米国証券取引委員会関連ファイルに記載されています。なお、弊社の将来予想に関する記述は、2013 年 4 月 23 日現在の弊社の観点を表すもので、現時点では更新の意図がないため、過度に依存することのないようご注意ください。

## <報道関係者お問い合わせ先>

デルタ航空太平洋地区広報部  
e-mail: [corpcommjapan@delta.com](mailto:corpcommjapan@delta.com)  
日本語ニュースルーム <http://delta.jp.mediaroom.com/>

**デルタ航空**  
**連結損益計算書**  
**(未監査)**

(株式データを除き単位は百万)	3月31日までの3ヶ月間			
	2013	2012	\$増減	%増減
<b>営業収益:</b>				
旅客:				
幹線	\$ 5,876	\$ 5,662	\$ 214	4%
地方路線キャリア	1,457	1,564	(107)	(7)%
旅客収益合計	7,333	7,226	107	1%
貨物	238	244	(6)	(2)%
その他	929	943	(14)	(1)%
営業収益合計	8,500	8,413	87	1%
<b>営業経費:</b>				
航空機用燃料と関連税	2,289	2,233	56	3%
給与および関連コスト	1,911	1,763	148	8%
特定運送業者手配 <sup>(1)</sup>	1,399	1,375	24	2%
航空機メンテナンス材料および外部修理	491	561	(70)	(12)%
減価償却	405	386	19	5%
委託サービス	401	378	23	6%
旅客コミッションおよびその他販売経費	357	380	(23)	(6)%
着陸料およびその他賃料	323	305	18	6%
旅客サービス	164	171	(7)	(4)%
航空機賃料	60	75	(15)	(20)%
プロフィット・シェアリング	20	—	20	NM
再編成とその他の項目	102	(12)	114	NM
その他	356	416	(60)	(14)%
営業経費合計	8,278	8,031	247	3%
<b>営業利益</b>	222	382	(160)	(42)%
<b>その他(経費)利益:</b>				
支払い利子、正味	(178)	(221)	43	(19)%
負債割引償却、正味	(42)	(51)	9	(18)%
雑勘定、正味	1	17	(16)	(94)%
その他経費合計、正味	(219)	(255)	36	(14)%
<b>所得税引前利益</b>	3	127	(124)	(98)%
<b>所得税控除(引当)</b>	4	(3)	7	NM
<b>純利益</b>	\$ 7	\$ 124	\$ (117)	(94)%
<b>一株当たり基本収益</b>	\$ 0.01	\$ 0.15		
<b>一株当たり希釈収益</b>	\$ 0.01	\$ 0.15		
<b>株式発行高基本加重平均</b>	848	843		
<b>株式発行高希釈加重平均</b>	855	847		

(1) 特定運送業者手配経費には、航空機燃料および関連税として、2012と2013の3月31日までの3ヶ月間に、それぞれ5億1,900万ドルと5億2,600万ドルを含む。

**デルタ航空**  
**バランスシート選択データ**

(単位:百万ドル)	2013年 3月31日	2012年 12月31日
	(未監査)	
現在現金等価額	\$ 2,636	\$ 2,416
短期投資	958	958
拘束性預金、現金同等物および短期投資	291	375
資産合計	45,068	44,550
負債合計および当期満期を含む資産リース	12,314	12,709
自己損失合計	(1,943)	(2,131)

**デルタ航空**  
**統計サマリー**  
(未監査)

	3月31日までの3ヶ月間		
	2013	2012	増減
<b>連結:</b>			
旅客マイル売上(百万)	43,078	43,351	(1)%
有効座席マイル(百万)	53,022	54,408	(3)%
旅客マイル利回り(セント)	17.02	16.67	2%
有効座席マイル当たりの旅客売上(セント)	13.83	13.28	4%
有効座席マイル当たりの営業コスト(セント)	15.61	14.76	6%
CASM-Ex - 注 A 参照(セント)	9.75	9.28	5%
搭乗率	81.2 %	79.7%	1.5 ポイント
消費燃料(百万ガロン)	875	886	(1)%
燃料 1 ガロン当たり平均価格、調整済み - 注 A 参照	\$ 3.24	\$ 3.28	(1)%
航空機台数、期末	719	770	(51)
正規職員数、期末	73,430	78,761	(7)%
<b>本線:</b>			
旅客マイル売上(百万)	38,018	37,730	1%
有効座席マイル(百万)	46,202	46,954	(2)%
有効座席マイル当たりの営業コスト(セント)	14.59	13.60	7%
CASM-Ex - 注 A 参照(セント)	9.03	8.56	5%
消費燃料(百万ガロン)	716	714	—%
燃料 1 ガロン当たり平均価格、調整済み - 注 A 参照	\$ 3.22	\$ 3.26	(1)%
航空機台数、期末	719	712	7

注: 正規職員数と航空機台数を除き、連結データは、デルタ航空の特定運送業者手配による運用も含む。

注 A: GAAP に基づかない財務措置の調整内容を下表に示します。また、デルタ航空がそのような措置を取る理由について、以下に説明します。

デルタ航空では、弊社の「連結財務諸表」から派生する情報(GAAP に基づかない財務措置)を利用する場合がありますが、それは米国で一般に公正妥当と認められた会計原則(GAAP)に従って提示されていません。米国証券取引委員会の規定に基づき、GAAP に基づかない財務措置は、GAAP に従って準備された結果とともに考慮すべきですが、GAAP の結果を置き換えたり、それよりも優れたものとして考えるべきではありません。GAAP に基づかない財務措置を、最も類似する GAAP 財務措置と比較した調整内容を下表に示します。

将来予想。特別項目の特性や数量が現時点では予測不可能なため、デルタ航空では GAAP に対して一定の将来予想を調整することができません。

特別項目。デルタ航空では特別項目を除外していますが、これは経営陣が、特別項目の除外は投資家が、記載されている期間中の弊社の主要な経常的業務実績を評価するのに役立つと考えるためです。したがって、これらの金額を調整することにより、有効な財務措置としています。この表で除外されている特別項目は以下の通りです。

- (a) 決算期以外の期間に記録された燃料ヘッジに対する mark-to-market (時価)調整("MTM 調整")。報告期間の最終時点での市場価格と一定の想定に基づく MTM 調整は、必ずしも約定取引期間内の基礎となるヘッジの実際の将来価値を示すものではないため、MTM 調整は除外しています。
- (b) 再編成とその他の項目。

(株式データを除き単位は百万)	2013年1月1日~3月31日の 3ヶ月間				2012年1月1日~3月31日の 3ヶ月間				GAAP に 基づかない増減
	GAAP	(a)	(b)	Non-GAAP	GAAP	(a)	(b)	Non-GAAP	
<b>連結損益計算書(未監査)</b>									
純利益(損失)	\$ 7	(24 )	102	\$ 85	\$ 124	(151 )	(12 )	\$ (39 )	\$124
希薄株 1 株当たりの純利益(損失)	\$ 0.01	(0.03 )	0.12	\$ 0.10	\$ 0.15	(0.18 )	(0.02 )	\$ (0.05 )	\$0.15

以下の表は精油所、燃料費ヘッジ、1 ガロン当たりの平均価格による影響を示します。

連結:

(ガロン当たりのデータを除き単位は百万)	3月31日までの3ヶ月間				1 ガロン当たりの平均燃料価格 3月31日までの3ヶ月間			
	2013		2012		2013		2012	
	燃料購入費	\$	2,863	\$	2,955	\$	3.28	\$
精油所セグメントの影響		22		-		0.02		-
燃料ヘッジ(利益)損失		(77)		(196)		(0.09)		(0.22)
燃料費合計	\$	2,808	\$	2,759	\$	3.21	\$	3.11
MTM 調整		24		151		0.03		0.17
調節済みの燃料費合計	\$	2,832	\$	2,910	\$	3.24	\$	3.28

本線:

	3月31日までの3ヶ月間			
	2013		2012	
主要路線の燃料 1 ガロン当たりの平均価格	\$	3.19	\$	3.05
MTM 調整		0.03		0.21
主要路線の燃料 1 ガロン当たりの平均価格、 調整済み	\$	3.22	\$	3.26

有効座席マイル当たりのコスト、または燃料費以外のコスト("CASM"):上記の特別項目以外に、連結および幹線 CASM から以下の項目を除外して CASM-Ex を算出しました。

- 航空機用燃料と関連税。燃料価格の変動性は、前年比の財務実績の比較可能性に影響を及ぼします。経営陣は燃料費や関連税(容量購入手配に基づく特定運送業者を含む)の除外によって、投資家は燃料以外のコストと前年比の財務実績をよりよく理解し、分析できると考えています。
- 付属事業。付属事業は座席マイルの生成には関係していません。このような事業には、デルタ航空が第三者に提供する航空機の保守および人員派遣サービスや、デルタ航空のパッケージツアー卸売事業などがあります。
- プロフィット・シェアリング。経営陣は、この項目を除外することによって、デルタ航空の業績を航空業界全体の業績や、デルタ航空の前年の業績との比較に役立つと考えています。

連結 CASM-Ex:	3月31日までの3ヶ月間	
	2013	2012
CASM(単位:セント)	15.61	14.76
除外項目:		
航空機用燃料と関連税	(5.33)	(5.34)
付属事業	(0.35)	(0.44)
プロフィット・シェアリング	(0.04)	—
再編成とその他の項目	(0.19)	0.02
MTM 調整	0.05	0.28
CASM-Ex	9.75	9.28

幹線 CASM-Ex:	3月31日までの3ヶ月間	
	2013	2012
幹線 CASM(単位:セント)	14.59	13.60
除外項目:		
航空機用燃料と関連税	(5.00)	(4.95)
付属事業	(0.35)	(0.45)
プロフィット・シェアリング	(0.04)	—
再編成とその他の項目	(0.22)	0.04
MTM 調整	0.05	0.32
主要路線の CASM-Ex	9.03	8.56

**調整済みの負債総額:**デルタ航空では金融債務の予測値を提示するために、長期的な調整済みの負債や資本リースに加え、航空機のレンタル料を含む、調整済みの負債総額を採用しています。デルタ航空は、調整済みの負債総額を現金、現金相当物および短期投資で減額します。その結果、調整済みの負債総額は、負債を満たすのに必要な追加資本額を示すこととなります。

(単位:十億ドル)	2013年3月31日	2009年12月31日
負債と資本リースの債務	\$ 12.3	\$ 17.2
および:未償却割引を加算。購買会計とフレッシュスタート報告からの総額	0.5	1.1
調整済みの負債と資本リースの債務	12.8	18.3
7x型の12ヶ月間の航空機レンタル料を加算。	1.8	3.4
調整済みの負債総額	14.6	21.7
現金、現金相当物、短期投資を減算。	(3.6)	(4.7)
調整済みの負債総額	\$ 11.0	\$ 17.0



**債務償還総額:**デルタ航空では負債支払総額を提示していますが、これは経営陣が、同測定基準は投資家が弊社の負債に関する活動を評価するのに役立つと考えるためです。

(単位: 百万ドル)	2013年1月1日～	
	3月31日の3ヶ月間	
長期負債と資本リースの債務返済	\$	299
調整:		
AMEXとの契約に基づく事前購入に使用したスカイマイル		83
負債支払総額	\$	382

**燃料を除いた営業経費:**燃料費や関連税(容量購入手配に基づく特定運送業者を含む)の除外によって、投資家が燃料以外のコストと前年比の財務実績をよりよく理解し、分析することができます。

(単位: 百万ドル)	3月31日までの3ヶ月間		
	2013	2012	増減
営業経費	\$ 8,278	\$ 8,031	
除外項目:			
航空機用燃料と関連税	(2,289)	(2,233)	
航空会社の取り決めによる燃料費に含まれる、航空機用燃料と関連税	(519)	(526)	
燃料を除いた営業経費	\$ 5,470	\$ 5,272	\$ 198

**調節済みの営業活動によるキャッシュフロー、すなわち「営業キャッシュフロー」:**デルタ航空では営業活動によるキャッシュフローを提示していますが、これは経営陣が、特定項目の調整は投資家が弊社の営業活動を評価するのに役立つと考えるためです。

(単位: 百万ドル)	2013年1月1日～	
	3月31日の3ヶ月間	
営業活動によるキャッシュフロー、正味	\$	1,004
調整:		
AMEXとの契約に基づく事前購入に使用したスカイマイル		83
調節済みの営業活動によるキャッシュフロー	\$	1,087

**フリーキャッシュフロー:**デルタ航空ではフリーキャッシュフローを提示していますが、これは経営陣が、同測定基準は投資家が弊社の現金発生能力を評価するのに役立つと考えるためです。

(単位: 百万ドル)	2013年1月1日～	
	3月31日の3ヶ月間	
営業活動によるキャッシュフロー(GAAP)、正味	\$	1,004
投資活動によるキャッシュフロー(GAAP)、正味		(630)
調整:		
AMEXとの契約に基づく事前購入に使用したスカイマイル		83
フリーキャッシュフロー総額	\$	457